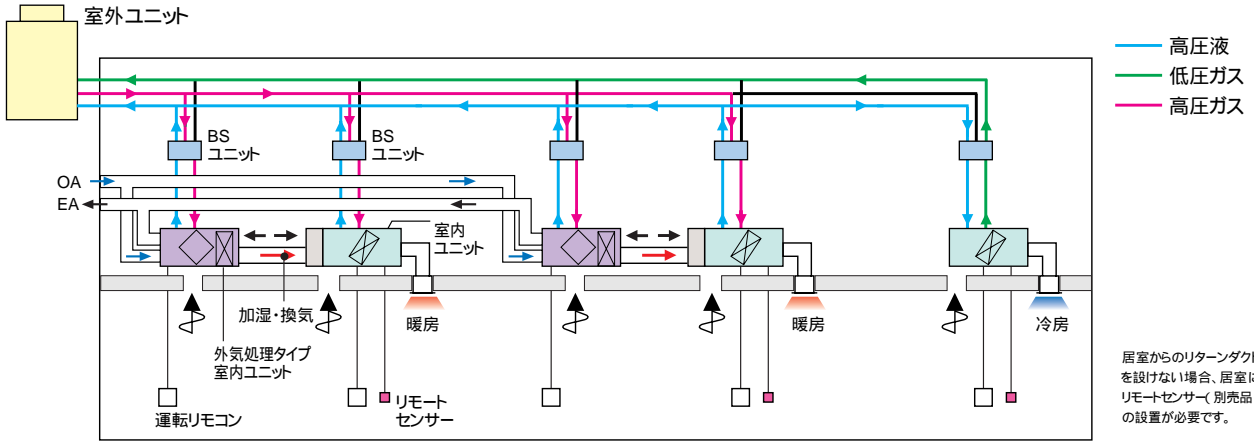


大規模ビル空調で主流になりつつある天井リターン方式に合せて、総合的な空調システムが構築できます。

室内の間仕切りを自在に行う大空間の空調には、ゾーンごとに個別空調ができるビル用マルチが適しています。さらに、外気処理タイプの室内ユニットを組合せることにより1システムで温調・換気システムが構築できます。

天井リターン方式システム例



天井埋込ダクト形室内ユニットによる天井リターン方式¹でのシステム展開例

天井リターン方式で天井埋込ダクト形室内ユニットと外気処理タイプ室内ユニット(VKMP-GAM)との組合せで使用する場合

1 BSユニットの取付け

冷房・暖房の切替を自動モードで使用される場合には、各室内ユニットごとに切替が行えるよう、室内ユニットごとにBSユニットを取付けるシステムを推奨します(下図)。このシステムなら、テナントの間仕切り変更などにも容易に対応できます。

3 ダクト施工について

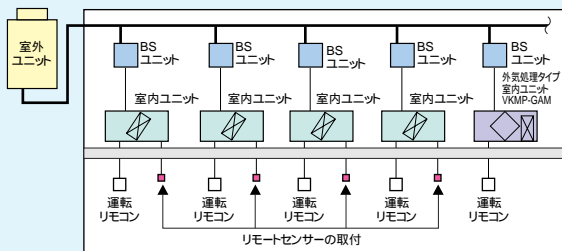
外気を各室内ユニット経由で居住域に供給する天井内吸込チャンパーミキシング方式の場合は、下図のように室内ユニット吸込側にチャンパーをご用意⁴の上、吸込口付近へダクト接続を行う方法を推奨します。

4. 室内ユニットのボディサーモへ外気処理タイプ室内ユニットの風を直接当てないためです。

2 リモートセンサーの取付け

天井リターン方式¹では照明機器などの発熱によって、天井内温度が居住域より高くなる場合があるため、外気処理タイプ室内ユニット以外の室内ユニットはリモートセンサー²を居住域内に設置³してください。

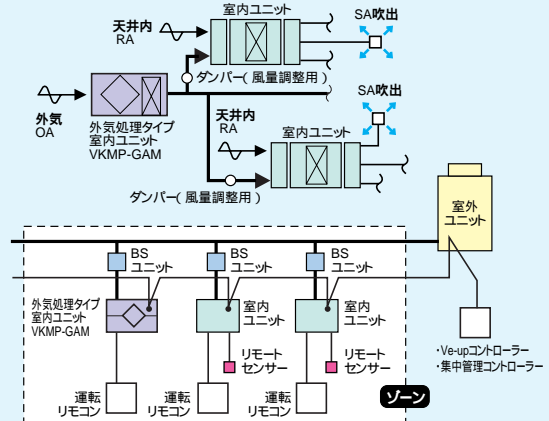
1. システム天井などで、リターン側にダクトを使用せず、天井自体をチャンパーとして使用する方式。
2. 温度を検知するセンサーを室内ユニットより離して設置する別売品(連絡配線はキットに付属)。
3. 居住域内に設置できない場合は、天井吸込口など居住域温度に近い温度を検知できる場所に設置してください。



4 室内ユニットとの運転方法について

確実な換気のため、Ve-upコントローラーなどの集中管理機器により、室内ユニットを含めたゾーン単位での運転を行うことをおすすめします。

室内ユニットと運転を行う場合は、必ず同一冷媒系統内で行ってください。(別系統の場合、外気処理タイプ室内ユニット系統が除霜運転を行うと、室内ユニットから冷風が出る場合があります。)



外気処理タイプ室内ユニットから室内ユニットへの風量は、室内ユニットのご使用風量の約2割以下にしてください。